えーる！

平成 25 年号

まちづくり応援団 えーる

もくじ

第１号
　二所山田神社の二年参り、かまくら特集
第２号
　ギフトカードプレゼント、鹿野茶特集
第３号
　弘法大師像と鹿野の桜特集
第４号
　桜さくらウィークと４月のイベント特集
第５号
　ポタリングと筑紫会特集
第６号
　鹿野アートフェスティバルといっておかえり鹿野市特集
第７号
　鹿野アートフェスティバル特集、かののむかしばなし（仏の銭平）
第８号
　かののちょっといいところ特集

二所山田神社の初詣！



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

二所山田神社に集まった、たくさんの「わ」

新年あけましておめでとうございます！　昨年七月を最後にしばらくお休みしていた「くちコミ」ですが、平成二五年の始まりにあわせて「えーる！」と名前を変え、今後も鹿野の情報をお届けしていこうと思います。

さて、一月と言えばやっぱり神社の初詣ですね。上の写真をご覧ください！

たくさんの人が、平成二五年になった瞬間に神社を訪れていました。雪が積もる寒い中でしたが、神社の境内はたくさんの人が集まりとても暖かかったですよ。わたしも参拝して、懐かしい友達を見かけたりもできました。

皆さんはどんな願い事をしたのでしょうか？そのお願い事がかなうといいですね♪



境内ではおなじみ劇団「わ」によるぜんざいの炊き出しがありました。

代表の亀谷三千代（かめがいみちよ）さんは、「平成二四年を見送り、平成二五年がもっと良い年になるよう皆さんをおもてなしさせていただきました。「わ」も今年で十二回目、皆さんにもっと楽しめる内容にしていきたいと思います」と公演の意気込みも語っていました。劇団「わ」公演は六月予定。今から楽しみですね♪

今年も〝手子（てご）人〟大募集！！

鹿野の冬、雪を楽しく！　みんなでかまくらを作りませんか？



←昨年の雪で作られたかまくらです。今年もできるかな！？

昨年二月、鹿野の町なかにたくさんのかまくらが並んだのを覚えていらっしゃいますか？　周南市役所鹿野総合支所の前に作られたかまくらから、町なかにずっと並んだ小さなかまくらに灯された明かりは、とてもきれいでしたね。

今年も鹿野の雪を利用してかまくらを作ろうと、鹿野町商工会さんと山口県デザインセンターさんが主催となってかまくら作りを行う予定です。雪を使ってあっと驚く催しを行い、鹿野のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいというこの企画ですが、たくさんのかまくらを作るためにはそれだけたくさんの人手が必要になります。

そこで、左のような内容で今年もお手伝いである「手子人（てごにん）」を募集しています！

鹿野の冬をとことん楽しもうというこの企画を、みんなの力で大成功させましょう！

＊ かまくら「手子人」募集要項 ＊

主旨：
　鹿野に降る雪を使って、鹿野ならではの地域づくりとして「かまくら」を作り鹿野をアピールする。

内容：
　軽トラックで雪を集め、周南市役所鹿野総合支所の敷地内などにかまくらを作る。企画に参加する鹿野の各店舗とボランティアによって作業を行う。

手子人登録についてのお問い合わせ先：
周南市役所鹿野総合支所 産業土木課（0834-68-2335）
鹿野町商工会（0834-68-2259）

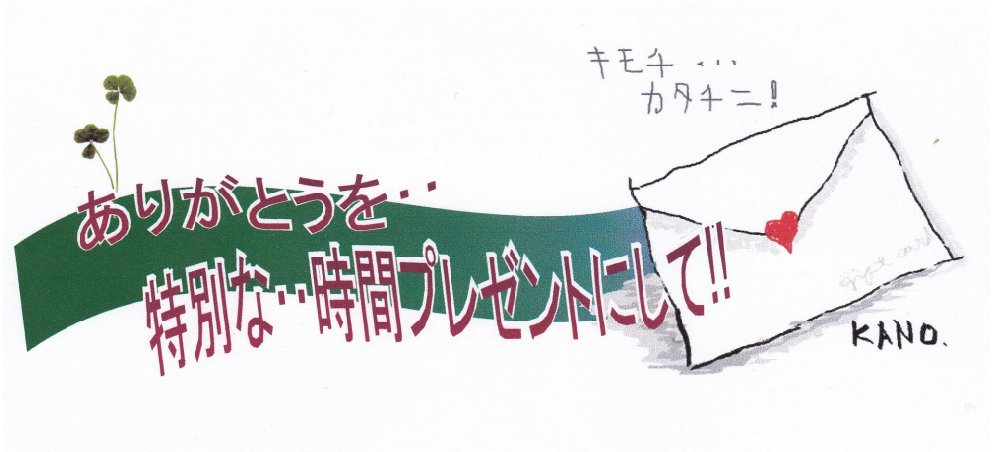
みんなで、楽しい鹿野の冬を作りましょう！



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

ギフトカードを送りませんか？



少しずつ暖かくなり始めているからでしょうか？

花粉症でお悩みの方もいらっしゃるかと思います。皆様はいかがですか？

さて、今月の「えーる！」は、明日から販売が始まるギフトカードのご紹介から始めたいと思います。

このギフトカードの企画は、各季節に楽しい催しを企画していらっしゃいます「鹿野の風」プロジェクトの皆さんによって実現しました。

三月十四日のホワイトデーのお返しとして何かできないかという話から、鹿野の店舗のギフトカードを作ることで仲のよい人と素敵な時間をすごしてもらいたい……そんな気持ちが生まれ、今回の企画が実現しました。

このギフトカードが利用できる店舗は、すべて鹿野の店舗ばかりなんです！　このギフトカードには、普段味わえないような時間を鹿野の里山で過ごしてほしい、という意味もあるんですよ。

また、このギフトカードは、封筒の形をしています。封筒の中には、利用可能店舗の一覧のほか、メッセージカードが入ります。このメッセージカードには、皆さんが自由に内容を記入することができます。普段お世話になっている人に、面と向かって言うのは恥ずかしい気持ちを伝えるには、またとない良い機会ではないでしょうか。

販売期間・利用可能店舗・お問い合わせ先など、詳細は左の通りになります。お世話になっている感謝の気持ちを、鹿野ですごす素敵な時間と一緒に大切な人に送ってみてはいかがですか？

鹿野で過ごす「素敵な時間」をプレゼント

販売期間　平成25年3月1日～（**限定500枚**で販売終了です）
＊500枚販売終了後、再び年間を通じ販売する予定です！

利用可能店舗（敬称略）
- 石船温泉
- 大潮田舎の店
- cafe　かつうら
- cafe 911
- 花＆喫茶 さくや
- 農家レストラン たぬき
- 長野山ロッジ
- はなどり
- マルタ
- ま心

販売は鹿野中の大田屋さん（0834-68-2215、右写真）か、旧徳山市域にあるふるさと産品の店「こあ」さん（0834-22-8516）で行っています。お気軽にお問い合わせください♪



鹿野のお茶探訪





300℃という高温の釜で炒られたお茶は、他では味わえないようなすばらしい味になるんですよ！　皆さんも、ぜひ一度飲んでみてくださいね♪

～　鹿野茶の原点、中国にあり？　～

お茶といえば、すぐに浮かぶのは静岡や京都の宇治、福岡の八女といったところでしょうか。しかし、実はこの鹿野にもおいしいお茶があるんですよ！　今回は、鹿野昔ながらの製法でお茶を出されている農家レストラン「たぬき」さんに鹿野のお茶についておうかがいいたしました。

実は、渋川地区の山の中には、杉・ヒノキなどに隠れてお茶の木が生えているそうです。かつては鹿野のあちこちでお茶が生産されていて、萩城にも献上され、藩主の飲用茶としても使われていたほどの名品でだったんですよ。

この鹿野茶は「釜」で葉っぱを炒り、それをむしろの上で揉んで、天日で乾燥させて作られるものです。その味はと言うと、どことなく甘いような、なんとも言えないすばらしい味がします。気がつけばついついおかわりをしてしまうような、不思議なおいしさのあるお茶なんですよ。

そんな鹿野茶ですが、その起源をたどっていくと、お隣の中国にまで行き着くことができました。

かつて、用堂明機禅師というお坊様がいて、唐の時代に杭州（こうしゅう）という場所で修行を積み、一三七四年にこの鹿野で漢陽寺を開山されました。

用堂禅師が修行された径山寺（きんざんじ）というお寺は、茶道にも大きな影響を与えたという言説もあるお寺で、茶の木が多くあったというお寺なのだそうです。そんな径山寺で修行された用堂禅師が帰国され、当時山口を支配していた大内氏の招きに応じて鹿野にやって来られました。六日市から渋川に入り、鹿野までやって来たその道中、渋川にお茶を植えて行った、という言い伝えがあるんですよ。

そして、径山でもお茶を飲むときは鹿野と同じように釜炒りしたお茶を飲むのだそうです。

お話によると、漢陽寺の住職である杉村さんが中国から持ち帰ったお茶を皆にふるまったところ、鹿野のお茶と同じ味がする、という感想があったのだとか。

鹿野に昔からあるお茶には、とても深い歴史があるんだな、としみじみ感じることができました！



お茶摘み（製造）体験をしてみませんか？

農家レストラン「たぬき」さんでは、レストランで出されているお茶のお茶摘み・製造体験を受け付けています！

自然の物なので、天候等の都合がありますから、体験をしてみたいという方は「たぬき」さん（0834-68-3818）までお問い合わせください♪

弘法大師は、今いずこ



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

鹿野に残された台座……像は、どこへいったの？

まだ時々肌寒い日もありますが、ずいぶん春らしい日が続くようになりましたね！

さて、今回の「えーる」は、東の真行寺さんのすぐ近くにあったと思われる、弘法大師の像についてご紹介いたします。

上の写真のように、台座だけが鹿野に残された状態になっていて、肝心の像はどこに行ってしまったのでしょうか？　噂では、すでにこの鹿野にはなく、県内の別の場所に持っていかれた、とか、色々と憶測が飛び交っています。

下の写真は台座の一部分ですが、そこには「鹿野八十八箇所」という文字が見て取れます。以前発行していた「くちコミ」で、輝きクラブさん主催で行われた八十八箇所健康ウォーキングを特集したことがありますが、その「八十八箇所めぐり」と何かの関係があるのでしょうか？

また、台座には何か文字が彫ってある形跡があるのですが、長年の風雨にさらされ何が書いてあるかははっきりわかりませんでした。

このように、様々に謎を残す台座。調査してもわからないことだらけですが、何かご存知の方がいればぜひご一報ください。引き続き、この台座の謎を解き明かしていきたいと思います！



弘法大師って？

平安時代に活躍したお坊さんで、真言宗の開祖である「空海」のおくり名が弘法大師といいます。

様々な書を書きこなす優れた書家としても知られており、「弘法筆を選ばず」「弘法にも筆の誤り」のように、ことわざでその名前が使われるときは、一緒に書道に使われる「筆」が使われていることが多いんですよ。

また、なぜか各地で温泉を見つけていることでも有名です。山口県で言えば、長門市にある「湯免温泉」も、この空海が見つけた温泉といわれています。

色々な逸話を持っている方なんですね！

鹿野の桜、開花近し

～　弾正糸桜と金松桜を見に行こう！　～

さて、そろそろ四月がやってきます。鹿野の各所に咲く桜も、少しずつつぼみを大きくし始めていますね。

左の写真は、市役所鹿野総合支所横に咲く「弾正糸桜」です。

枝が柔らかく、垂れ下がることから「しだれ桜」と呼ばれるこの桜は、樹齢四百年という長寿の桜なんですよ。

支え棒が枝を支えている状態ですが、桜は今年もうっすらと桜色になってきています。きっと、今年もきれいな花をさかせてくれると思いますよ！

「清流通り」を散歩するときには、是非その姿を見てみてくださいね。



また、同じ桜でもヤマザクラと呼ばれる、大泉にある「金松桜」は、弾正糸桜とは逆に硬く枝を広げています。

その大きさは、なんと三十メートル！　ビルで言えば七～八階にあたる大きさなんです。また、幹周りは二メートル以上にもなるというから驚きです。数年前に周囲がきれいに整備され、坂道を上った先に立つ姿は、近くで見ると圧倒されてしまいます！　近くに寄って見上げてみると、その高さには本当に驚きの一言です。

二つの桜は、ちょうど春分の日に写真撮影をしたのですが、うっすらと桜色をしはじめている壇上糸桜と違い、金松桜はまだ色づく様子はありませんでした。





金松桜下には左のような看板があります。遠くから眺める姿も素敵ですが、是非近くでその姿を見上げてみてくださいね。

桜で飾る3日間 ～桜さくらウィーク～



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

「鹿野の風」プロジェクト第七章、桜で鹿野を彩ります！

もうすっかり暖かくなった毎日ですが、皆様はいかがお過ごしですか？

さて、すっかり鹿野の風物詩になりつつある、鹿野の飲食店が中心となって様々なイベントを行う「鹿野の風」プロジェクト。今年の春は「桜」をイメージした色々なメニューが並びました。

上の写真は、カフェ・マルタさんがご用意された「桜シフォン&桜紅茶」です。シフォンケーキはふんわりしていて、クリームの他に、餡を乗せてありました。洋菓子であるケーキに和風の餡を乗せ、普通のケーキとはまた一味違った上品な甘さがおいしかったですよ。

一緒に出された桜紅茶も、紅茶についた桜の味付けがとてもおいしかったです。どちらのメニューも今回の「桜」というテーマを生かして作られた、素敵な物でした。

ケーキをいただきながら、マルタの店主である福田さんに企画についてお聞きいたしました。今回三日間に期間を限定したのは、期間を狭めることで、集中して企画を楽しんでいただくためなんです。そんな企画に賛同された今回の参加店舗様は、左にあるとおりの十店舗です。鹿野の町なか、大潮・渋川・金峰・今井と鹿野の町全体が一緒になって企画を成功させているんですね！

お店にたくさんの人を迎え、盛況のうちに終わった当企画。鹿野に、たくさんの「風」が吹いていることを感じました。

"桜さくらウィーク"の参加店舗様

cafe マルタ

農家レストランたぬき

長野山ロッジ

大田屋

周平堂

はなどり

石船温泉

大潮田舎の店

cafe 911

きずなの宿

（敬称略）

鹿野・4月のイベント

～　人文字しゅうなんと石船温泉さくらまつり　～

四月は入学式・お花見などなど、公私ともにたくさんのイベントがある季節。そんな四月、鹿野ではどんなイベントが行われたんでしょうか？

ここでは四月に行われたイベントを二つご紹介したいと思います。

最初は、鹿野のみならず周南市全体をつないで行われた「空からつなぐ人文字しゅうなん」です。

これは、周南市のあちこちに集まった皆さんが作った「人文字」を、上空の飛行機から撮影し、今年十周年を迎える周南市の自然、そして市民の笑顔を空から一つに「つなげて」いくことを目的にして行われた企画です。

鹿野の上空を飛行機が飛んで撮影したのは、昼下がりの三時頃。鹿野小学校、漢陽寺、農家レストラン「たぬき」さんの三箇所に集まり、人文字を作るために集まられていた方もいらっしゃるかもしれませんね。

左の写真は「たぬき」さんに集まった皆様です。フラメンコスタイルで参加された常連のお客様、菜の花を束にして持って来られた近所の人、宝くじ祈願祭ののぼりを持って来られた方など……色々な人たちが、人文字を作りに集まりました。撮影が終わった後、集まった皆様と色々な話が交わされて、温かい「わ」ができていたんですよ。



鹿野だけではなく、周南市全域の皆さんの笑顔をつないで飛び回るというこの企画は、合併して十年を迎える周南市の誕生日を飾る、素敵なイベントになったと思います！

また、人文字しゅうなんから一週間前の十四日には、石船温泉で恒例の「さくらまつり」が開催されました。

会場となった石船温泉の周りは、会場を訪れた皆さんの車がずらり！会場も人がぎっしりで、鹿野の特産品のバザーや様々な催しものを楽しまれていましたよ。

わたしもせっかくのお祭りなので、昼食がてらに顔を出してみました。

先着千名様に無料配布の「さくら寿司」はとうに売り切れ、のんたそばと鹿野ファームのおいしいお肉をいただきながら、吹奏楽の演奏や演芸披露を楽しんで来ましたよ。

春の陽気とおいしい食事を楽しめるさくらまつりは今年で十六回目。春の一日を楽しめるイベントを、来年も楽しみたいですね！

石船温泉さくらまつり



初夏を走る！ポタリングin鹿野



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

自転車に乗って楽しもう！鹿野の自然

すっかり暖かくなって、汗ばむ毎日。半袖ですごされる方もいらっしゃるのではないでしょうか？

五月十二日の日曜日に、鹿野で自転車に乗った方々を見かけられた覚えはありませんか？

この自転車で走っていた皆様は、鹿野のよさを考えて活かし、交流人口を増やす活動をしていらっしゃる「鹿野ブランド創出研究会」様の主催によって、鹿野の自然を堪能するイベントである「ポタリング in 鹿野」に参加されていたんです。

耳慣れない「ポタリング」という言葉を冠したこの催しですが、ポタリングを簡単に言ってしまうと、自転車に乗ってあちこちを気楽にぶらぶらする催しのことなんです。自転車を使って散歩をしているようなものですね。

鹿野のすばらしい自然をゆっくりと堪能してもらおうと企画されたこのポタリングには、協力者を含め合計で十八名の皆様が参加されました。あまりたくさんの人がいると逆にゆっくり散策することができないですし、ちょうどいい人数だったと思います。

参加した方から、「いつもは鹿野を通り過ぎるだけだったけれどゆっくり自転車に乗って鹿野の自然を見ることができてよかった。心が癒されるような感じがした」「昼食で立ち寄ったファミリーランドさんの鮎のから揚げがとてもおいしかった」と、参加してよかったという声をたくさん聞くことができました。

次回は秋頃に開催予定。皆様も是非、鹿野の自然を楽しんでくださいね！

当日の散策コース

大田屋
↓
Cafe　マルタ
↓
ライオン岩
（写真の場所です）
↓
鹿野
ファミリーランド
↓
宝作神社
↓
漢陽寺
↓
大田屋

箏の音色と子どもたち

～　鹿野小学校にやってきた"筑紫会"　～

皆さんは、箏という楽器をご存知ですか？　一般的には琴とも呼ばれることもある、日本の伝統的な楽器の一つです。

五月十二日、岩国市にあるシンフォニア岩国で、箏曲の会「筑紫会」の全国大会が開かれました。この全国大会の翌日である五月十三日、鹿野小学校の多目的ホールで、筑紫会の創始者であり演奏家・作曲家として活躍されていた筑紫歌都子さんが作られた曲の演奏会が催されました。この催しは学校や地域が連携して学校の運営を進める事業「コミュニティ・スクール」の一環として行われたんですよ。

当日は国内外で箏を演奏するなどしてご活躍していらっしゃり、鹿野出身でもある田中歌澄さんをはじめ、北九州市の金澤歌光さん、西歌紘さん、小郡文化協会の会長さんで尺八を演奏されている津田蒼幻さんたち、四人の大演奏家の方がいらっしゃり、その腕を披露してくださいました。鹿野小・中学校の児童・生徒さんが集まり、素敵な箏の音色に耳を澄ませていたんですよ。

ところで、田中さんたちがなぜこの鹿野にやってきたのでしょうか？

それは、この筑紫会の創始者である筑紫さんが鹿野で生まれ育った、鹿野と縁深い方だからなんですよ。

鹿野小学校高等科に在籍していたとき、福岡の音楽家の養女となった筑紫さん。子どもの頃は鹿野の自然の中で遊び、偶然にも鹿野天神祭の行われる七月三十日生まれであったことから天神さまである菅原道真が好きだった、そんな方だったそうです。たくさんの名曲を遺された筑紫さんですが、きっとその曲には、鹿野ですごした頃の思いがこもっているんだろうと思います。

演奏された田中歌澄さんも「情景描写が自由で自然豊かな鹿野で育った筑紫先生ならではの曲があります。郷土の誇りに感じる思いを地元の子どもたちにも引き継いでもらいたい」とメッセージを残されていました。

鹿野の生んだ偉人である筑紫さんのお弟子さんたち。また、鹿野に来てほしいですね！



▲演奏会の様子です。前日に行われたシンフォニア岩国の演奏の様子などはブログ「川が好き 川にうつった 空も好き」を検索してみてくださいね。



筑紫 歌都子さんの石碑

主に福岡で活動され、日本だけでなく海外にも、2,000人を超える演奏家を育成された筑紫さん。筑紫さんが多感な十代の頃を過ごされたこの鹿野の清流通りには、左の写真のような筑紫さんの石碑があるんですよ。散歩などで清流通りを通るときには、是非ご覧くださいませ。

絶やせないものがある



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

「鹿野」を使った作品展、今年も開催いたします。

さて、七月十二日から海の日である十五日までの四日間、コアプラザかのを舞台にして今年も「鹿野アートフェスティバル」を開催します！

鹿野の伝統工芸品である「山代和紙」の魅力を皆に知ってもらいたい、という思いから始まったこの催しは、ＪＡ周南鹿野支所のパッチワークサークルの皆さん、鹿野で石英ガラスを製作されている周南クオーツさん、そして今回は鹿野陶芸クラブさん、押し花教室さん、木・竹を用いた作品も集い、より「鹿野」を使っての作品展となりました。

この鹿野の中には、たくさんの宝物が眠っていると思います。この作品展を始めるきっかけになった「山代和紙」は、冬の寒さが厳しく、冷たい水が流れる鹿野で、古来より作られてきた鹿野の特産品です。

「絶やせないものがある」という今回のキャッチコピーのとおり、山代和紙をはじめこの鹿野の中には「絶やせない」ものがたくさんあります。

鹿野アートフェスティバルの開催を通じ、この鹿野の中にたくさんの素晴らしいものがあることを皆さんにアピールしたい。鹿野以外の地区にお住まいの方にも、素晴らしい鹿野を知り、好きになってほしい。

そんな思いから、今年で四年目を迎える鹿野アートフェスティバル。今年も開催いたします。

鹿野アートフェスティバル ごあんない

開催日時：
7月12日（金）～7月15日（祝）
午前10時～午後5時

＊13日は夜間イベントのため、夜9時まで開催いたします。
＊15日は作品搬出の関係上、午後4時で終了となります。

会場：
コアプラザかの

予定イベント：
山代和紙を使ったうちわ作り、消しゴムハンコやコンサート、お抹茶カフェなどなど、たくさんのイベントを準備しています！
是非ご来場くださいませ。

今年の夏は"鹿野市"

～ いっておかえり。鹿野市　開催いたします。 ～

鹿野の町並みは、鹿野を流れるおなじみの「潮音洞」の道沿いに発展してきたものである……というお話は、フリーペーパー「くちコミ」で取り上げさせていただいたことがあると思います。

この鹿野の町では、毎月「三」のつく日に開かれる「三歳市」という市が開かれていました。今でも町なかが「上市」「下市」と呼ばれているのはその名残なんですよ。

この三歳市が開かれ、商人たちが滞在する長屋などが建てられ、道の両側に家屋・商店が立ち並ぶ鹿野独特の商店街ができてきました。

今回、この「三歳市」のように、古民家や空き地を利用して現代にこの「鹿野市」を復活させ、鹿野の町なかに賑わいを取り戻そう！　という目的のもと、鹿野ブランド創出研究会さん、鹿野景観まちづくりの会さんを主催とする有志の皆さまによって、七月に「鹿野市」が催されることになりました！

上野・上市という、まさに昔、市が開かれていた通りを会場にして、カフェやミニライブ、ギャラリーや地元の農産物販売、写真展などなど、たくさんの催しものが行われる予定なんですよ。

昭和の頃の雰囲気を思い出させるような、風鈴の音や清流・水路をイメージしたのれんをくぐった先にあるのは、きっと素晴らしい「鹿野市」に違いありません。

かつて山代街道が通り賑わった鹿野は、他ならぬ鹿野に住む皆さんの手で発展してきたものです。きっとこの催しも、そうした思いを受け継いで大成功すると思います！

いっておかえり。鹿野市

日時：

7月20日（土）・21日（日）

午前10時～午後4時

会場：

鹿野中心部（上野・上市）

鹿野市の目印は清流と水路をイメージした“青いのれん"です！　20・21日は、是非皆さんで青いのれんをくぐってください。

また、**7月19日（金）～21日（日）**の三日間は、鹿野の飲食店が鹿野の高原で育ったおいしいトマトを使った創作メニューをご用意して、皆さまをお待ちしております。

懐かしい鹿野市を堪能した後は、おいしい夏野菜をたっぷり召し上がってくださいね♪



▲昭和42年頃の鹿野の様子です。賑やかですね！

たくさんの人との「縁」ができました！



えーる！

発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

鹿野アートフェスティバル、無事閉会

最近の暑さは、まさに夏本番ですね！　夏ばてをしてしまいそうな天気ですが、体調にお変わりありませんでしょうか。

さて、この七月十二日から十五日にかけて、コアプラザかのを会場にして、四回目となる鹿野の伝統工芸品「山代和紙」を中心とした作品展「鹿野アートフェスティバル」を行うことができました。

四日間の開催期間中に、会場を訪れた方は述べ七八七人。多数のご来場をいただき、山代和紙のほか、パッチワーク、石英ガラス、木・竹細工など「鹿野」を使った作品を皆さまにごらんいただけたかと思います。

また、十三日の土曜日には、上の写真のように御霊山へ竹とうろうを設置し、夜にはコンサートや鹿野小学校四年生・六年生の皆さんに描いてもらったポスターの表彰式も行いました。

「手伝います！」

今回、作品展でありながら、一番大きく竹とうろうの写真を選んだのには、ちょっとした理由があるんです。

竹とうろうを灯した十三日の夜はいきなりの夕立で、準備していた竹とうろうはほぼ全滅。小ぶりになった雨の中で火をつけなおしていると、小学校の子どもたちが「手伝います！」と火をつけるお手伝いをしてくれたんです。その手伝いの甲斐あって、会場の皆さんに素敵な灯ろうの明かりをお届けすることができました。

作品展ももちろん素晴らしいものでした。それに加え、今回は新しい「縁」を感じることができた。そう感じます。



仏の銭平

～　かののむかしばなし　～

むかしむかし、銭平という爺さんが山里の一軒家に、一人で暮らしとった。この銭平じいさん、大変へそ曲がりでな。人が右と言えば左、上と言えば下だと言い、なんでもかんでも人と反対のことをする、困ったじいさんじゃった。じゃから村の衆は銭平じいさんを「へそ曲がり銭平」ちゅうて呼んでおったんじゃ。

ある年の節分のこと、村の者は「鬼は外、福は内」と声を張っては豆を投げておる。しかし銭平じいさん、なにせ人と同じことをするのが大嫌いなもんじゃから「鬼は内、福は外」と言いながら、豆を家の内へまいておった。するとどうじゃ。

「おうおう爺様よ、この節分の日に、よくも我らを呼んでくださった。今日はどこに行っても『鬼は外』と我らを追い出そうとする。おまけに、追い立てられて腹もペコペコじゃ。どうか、飯を一杯食わしてはもらえんか」

戸口からぬっと顔を出したのは、大きな二人の赤鬼と黒鬼じゃった。

銭平じいさん、そりゃあもう心臓が止まるほどびっくりして、がたがた震え出した。じゃが、よくよく見れば鬼は追い立てられたか体も傷だらけ。不憫にじいさん、鬼たちがかわいそうになった。

「まあまあ、よくわしの家に来てくれた。節分の祝い酒もあるけぇ、一緒に飲もういの。飯も、たんとあるけぇの」

銭平じいさんらぁは、節分の祝い酒を朝までかっくらって楽しい祝い酒をしたんじゃ。

翌朝、鬼の姿はどこにもなくて、その代わりに一抱えもある宝物が置いてあった。

鬼のお礼で大金持ちになった銭平じいさんは、「鬼つき銭平」と呼ばれるようになったんじゃ。

しかし、ある年のこと、銭平じいさんは風邪をこじらせてぽっくり死んでしもうた。三途の川に着いたじいさんは、怖い顔の婆さぁに「おまえは生きている間、嘘ばかりついてたのだから地獄へ行けい」と言われ、おずおずと地獄への道を歩いていった。

地獄の閻魔さまは、銭平じいさんのついた嘘を一つ一つ並べ立て、「お前のような者は釜茹での刑にしてやろう」と、控えていた鬼にじいさんを引き渡した。

「あれ、銭平じいさぁじゃなぁか」

銭平じいさん、死んでいるのに心臓が止まるほど驚いた。両脇におった赤鬼と黒鬼は、節分の日に祝い酒を食らいあったあの鬼たちじゃったんじゃ。

「こりゃあ久しぶりじゃのう。釜の湯はええあんばいにしちょくけぇ、安心して入ったらええ」

飛び上がるほど熱い釜の湯を、赤鬼がいい湯加減にすると、

「ああええ湯加減じゃ。極楽極楽」

肩までつかって心地よさそうなじいさんに、閻魔さまはかんかんじゃ。

「ええい、黒鬼よ。あのじいさぁに煮え湯をくれてやれい」

黒鬼は、こっそりとひしゃくに熱燗の酒を注いでやると、じいさんに飲ませたんじゃ。



じいさんはますますええ気分になって、閻魔さまはますますかんかんじゃ。

「ええい、お前のようなものをここにはおらせられん。娑婆に帰れ」

と、じいさんの首根っこを引っつかんでぶんと投げ飛ばした。

ぱちと目が開くと銭平じいさんの家じゃった。

「はて、もう死んでも地獄にゃ行けんし、生まれ変わったつもりでええことでもするかいの」

鬼からもらった宝を村人のために使い始めた銭平じいさんは、いつの間にか「仏の銭平」と呼ばれるようになったんと。

えーる！

鹿野のちょっといいところ探し



発行：
町づくり応援団"えーる"
URL:
http://straynotes.net/
Mail:
yell@straynotes.net

「あなただけの鹿野」を探しています。

気がつけば、朝晩はとても涼しくなってすごしやすくなってきましたね！

季節の変わり目ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、今回の「えーる！」では、いつもと違って皆様からお聞かせいただきたいことがあるんです。

それは、皆さんだけが知っている「鹿野のちょっといいところ」を知りたい、ということです。

今までお伝えしてきたとおり、鹿野にはたくさんの歴史、自然、そしてがんばっている人たちがいます。

だけど、名前を知られているたくさんのものだけではなく、些細なことだけれども皆さんが「鹿野ってすばらしい！」と思うものはたくさんあるんじゃないかな？　と思います。

上の写真、どこの写真かお分かりでしょうか？

実はこれ、漢陽寺さんの境内に植えてある紅葉なんです。今の時期はまだ紅葉は始まっていないのでこの写真は以前に撮影したものですが、今年もきっときれいな色を見せてくれるんじゃないかな？　と思っています。

ちなみに、八月の初めに漢陽寺さんの周りを散歩したとき、もう紅葉の葉っぱの先が、少しずつ赤くなっていたんです！

他の紅葉に比べてひときわ鮮やかな色だと思っていたら、夏の頃から少しずつ赤くなっていたんですね。他の紅葉よりも準備が早いから、鮮やかな色になったんでしょうか？

少し話がそれてしまいましたが、皆さんもこんな「鹿野のちょっといいところ」をご存じないでしょうか？

どこにでもあるかもしれませんが、皆さんにとってかけがえのない大事なものというのはたくさんあると思います。

そうした「鹿野のちょっといいところ」を探して、何かの形で皆さんにお伝えできればいいな、と思います。

ちなみに、わたしは写真のような秋の紅葉や稲刈り前の田んぼの様子がお気に入りだったりします。説明しにくいんですけれど、なんだか見ているとほっとするんですよ。

こんなところを知りませんか？

～ わたしが見つけた「鹿野のちょっといいところ」 ～

田んぼ



鹿野は農業も盛んです。鹿野のあちこちで見られる「田んぼ」も、鹿野のちょっといいところだと思います。

写真は刈入れが終わり、稲を掛けているところです。しばらくはさびしい姿に……と思いきや、冬には雪が降って真っ白な平原に早替わりします。

他にも、水が張られて苗が植えられた田んぼもいいですし、秋の実った稲穂も素敵ですね。

だけど、一番わたしが好きなのは早春の田んぼです。田植えの下準備で掘り返される田んぼから漂う土の香り！　あの香りに、ああ春が来たんだな、と思ったりします。

おもてなし



左の写真は、鹿野八十八箇所めぐりの際に札所にあったお菓子と「おひとつどうぞ」の看板です。

昔から八十八箇所めぐりがあると、地域の方が巡礼者をおもてなしする風習があったそうです。

大変な思いをしながら八十八箇所を回る人のことを思って行われるちょっとした「おもてなし」の心。そうしたものも、「鹿野のちょっといいところ」なんだと思います。

景色や史跡も素敵ですが、一番素敵で皆さんの心に残るのは、その場所に住む方々の温かいおもてなしの心ではないかと思いました。

舞台裏



右の写真は、昨年の劇団「わ」さんの練習風景です。

本番の日のことも目に付きますが、その成功のためには長い時間をかけた練習と、下準備が欠かせません。

劇団「わ」さんも、半年近い間、仕事や家庭の用事の間を縫っての練習・準備があってこそ、例年の大成功を収めています。

一日のための半年。その努力も、「鹿野のちょっといいところ」ですね。